

【実行委員後記】

待望のレビュー論文集 3 冊目である『言語文化と日本語教育増刊特集号 2004 年版』を無事完成させることができ、うれしさと同時にホッとした気持ちを感じています。この度編集事務局実行委員として編集に關つてみて、一冊の雑誌が完成されるまでにこんなに多くの方々のご尽力があったのかと初めて気づかされました。今後、雑誌を見るたびに愛しさが増す気がします。できるだけ多くの方に血と汗と涙の結晶 (!) であるこのレビュー論集を楽しんでいただけることを強く願っています。

無事完成に至ることができましたのも、前々回の実行委員であった谷内さん及び執筆者の方々のご協力があってこそです。また、IT 技術に乏しく、その上執筆・編集作業の途中で体調を崩して右往左往している私を現実行委員の皆さまがサポートしてくださったおかげで何とか作業を進めることができました。この場を借りてお礼申し上げます。そして、何よりも、お忙しい中丁寧に査読してくださった先生方に心より感謝申し上げます。

(高橋 織恵)

2004 年版の『言語文化と日本語教育増刊特集号』の発刊までようやくとり着き、私たちの論文を世に出すことができました。ゼミで草稿の検討・改稿を重ね、さらにそれぞれの分野の第一線でご研究なさっている先生方から貴重な査読コメントをいただいて書き上げた論文です。最初にレビュー企画書を提出したのが博士後期課程 1 年の夏休みですから、活字になるまでに 1 年半近くを要したことになります。その間、レビュー論文に不可欠である独自の切り口が見つからず、諦めかけたこともありましたが、先生方のご指導や仲間の励ましで、ふらふらになりながらも何とかゴールインできたという感じです。このレビュー論文集を手にしてくださった皆様に拙稿を読んでいただくことができるようになったのは、多くの先生方からいただいたご指導の賜に他なりません。ですから、このようにして書いた論文が第二言語習得研究・教育に対する何らかの貢献になっていることを切に願っています。また同時に、私たちと同じように研究者の仲間入りをしたばかりの方々に対しては、レビュー執筆の動機付けとしての役割が果たせることも願っています。

今回のレビュー論文集の発行にあたっては、論文執筆だけでなく、編集作業の点でも大変勉強になりました。編集事務局実行委員として編集作業に携わる機会を得たことで、1 冊のジャーナルが出版されるまでの工程を知ることができました。しかし、初めての経験であったために、実行委員だけでは手に負えないことも多く、前号、前々号の編集に関わっていた谷内さんにすべての面においてサポートしていただきました。過去 2 号の実績の上に編集された本号が、それらに引けを取らない出来映えになっていれば嬉しく思います。最後になりましたが、これまでにお世話になったすべての方々に心から感謝申し上げます。

(向山 陽子)

今回で 3 回目を迎えるレビュー論文集「第二言語習得・教育の研究最前線(2004 年版)」には、それぞれの論文について各分野の専門家に査読をしていただき、改稿した上で、掲載された論文が収められています。査読の先生方には、丁寧に読んでいただき、貴重なコメントを頂きました。この場を借りて心からお礼申し上げます。

今回のレビュー論文集は、編集事務局実行委員でもあり、執筆者の一人でもある私に、研究者として一歩踏み出す機会と、今後の研究方針について考える貴重な時間を与えてくれました。論文の執筆から完成まで、厳しいご指摘をいただくとともに温かく見守ってくださった多くの先生方、仲間たちに心からの感謝を伝えたいと思います。編集にあたっては、先輩の谷内美智子さんに、助言や支援をいただき、大変お世話になりました。谷内さんありがとうございました。そして、この一冊の本を世に出すまで一緒に編集活動をしてきた、向山陽子さん、吉澤真由美さん、高橋織恵さん、お疲れ様でした。

(尹 喜貞)

初版で約 20 本、前年度号で約 10 本、今年度号で 8 本と、既に 40 本近くのレビュー論文が一連のレビュー論文集で発表されたこととなります。シリーズ化に向けて、より確かな道筋が作られたのではないかと、このレビュー論文集の執筆・編集を手がけながら感じました。今後も、この論文集から、多くの論文が発表されていくことを願っています。

個人的な体験談としては、レビュー論文の執筆中に家族の転勤に伴って西日本の地方都市に引っ越したため、遠隔地からの投稿・編集作業の担当となりました。引越し先では、論文の複写や取り寄せが思うようにできず、本当に苦勞しました。そのような中、大活躍したのがインターネットでした。最近では、個人サイトでの論文の公開、ネットを媒体として発行している雑誌なども出てきており、自宅にいながら論文を手に入れることが出来たのはありがたいことでした。また、EBSCO host (主要な英文雑誌をインターネットを通して電子ジャーナルで手に入れられる)に大学外から接続できるようになったことも (大学に手続きが必要) 大きな助けとなりました。それでも手に入らない時は、友人が郵送してくれ本当に助かりました。編集も、校正作業や連絡などの大部分がメールで行われたため、遠隔地から作業に加わることが可能となりました。しかし、ミーティングなど実際に集まって行う活動には出られず、他のメンバーにメールで情報提供してもらいなど協力してもらい、最後まで担当することが出来ました。また、編集作業で問題が起きたときに、常に相談に乗ってくださった先輩 (谷内さん) の存在も大きかったです。このように、インターネットを駆使し、多くの方に助けてもらいながら執筆・編集に加わったレビュー論文集が世に出ることは、人一倍うれしいことです。一人でも多くの方に読んでいただけるよう心より願っております。

(吉澤 真由美)

2004 年 11 月
編集事務局実行委員